

V. 調查結果 寡婦世帯

V. 調査結果 寡婦世帯

(1) 本人および世帯の状況について

① 年齢

質問1 あなたの現在（平成30年11月1日現在）の年齢は何歳ですか。

[該当する番号1つに○をつけてください。]

表：年齢（%）

		20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	18.8	29.9	23.4	14.9	9.7
	一般計(n=120)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	20.8	30.0	18.3	15.0	11.7
	震災計(n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	29.4	41.2	14.7	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	0.0	0.0	2.2	19.4	36.1	24.4	17.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	一般計(n=174)	0.0	0.0	2.3	18.4	37.4	24.1	17.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	震災計(n=6)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

現在の年齢については、寡婦世帯合計で見ると、「50～54歳」が29.9%と最も多く、次いで「55～59歳」が23.4%、「45～49歳」が18.8%と続いている。一般世帯と震災世帯を比べると、震災世帯は「55～59歳」の割合が41.2%と一般世帯の倍以上となっており、反対に「45～49歳」の割合が11.8%と小さくなっている。

前回調査と比較すると、全体としてみると前回調査では40歳未満の割合が6割近くであったのに対し、今回調査ではほとんどが40歳以上となっており、高い年齢層が多くなる形となっている。

② 同居している家族

質問2 現在同居している家族は何人ですか。

[該当する番号すべてに○をつけ、それぞれ人数を（ ）に記入してください。]

表：同居している家族の人数

		1人	2人	3人	4人	5人以上	0人(1人暮らし)	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	33.1	20.8	9.7	4.5	1.9	18.2	11.7
	一般(n=120)	31.7	22.5	10.8	5.0	1.7	15.0	13.3
	震災(n=34)	38.2	14.7	5.9	2.9	2.9	29.4	5.9

現在同居している家族の人数については、「1人」(33.1%)が最も多く、「2人」(20.8%)、「0人(1人暮らし)」(18.2%)がこれに続く。一般世帯に比べて、震災世帯の方が「1人」(38.2%)や「0人(1人暮らし)」(29.4%)の割合が大きく、「2人」(14.7%)や「3人」(5.9%)の割合が小さい。

表：家族構成

		父母	祖父母	子ども	兄弟姉妹	孫	子の配偶者	一人暮らし	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	24.7	1.9	60.4	1.9	3.9	4.5	18.2	3.9	10.4
	一般(n=120)	26.7	1.7	62.5	2.5	4.2	5.0	15.0	3.3	11.7
	震災(n=34)	17.6	2.9	52.9	0.0	2.9	2.9	29.4	5.9	5.9

家族構成については、寡婦世帯計で見ると「子ども」が60.4%と最も多く、次いで「父母」が24.7%、「一人暮らし」が18.2%と続いている。一般世帯と震災世帯を比べると、「子ども」(52.9%)の割合が最も大きいことには変わりはないが、次いで震災世帯では「一人暮らし」(29.4%)と回答する割合が大きく、「父母」(17.6%)は第3位となっている。

前回調査と比較しても、全体としての傾向は変わらない。

③ 寡婦世帯となった理由

質問3 配偶者がいないのはどのような理由からですか。[該当する番号1つに○をつけてください。]

表：寡婦世帯となった理由 (%)

		病死	災害、事故死	その他死亡	離婚	未婚の母	遺棄	配偶者の心身障害	家出、行方不明	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	9.1	20.1	2.6	59.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7
	一般計(n=120)	10.8	1.7	3.3	73.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.7
	震災計(n=34)	2.9	85.3	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	18.3	5.6	2.2	71.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	一般計(n=174)	19.0	2.3	2.3	73.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	震災計(n=6)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

寡婦世帯となった理由については、全体としてみると「離婚」(59.1%)と最も多く、「災害、事故死」(20.1%)、「病死」(9.1%)がこれに続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災の影響から震災世帯では「災害、事故死」(85.3%)が最も多く、全体としての「災害、事故死」の割合を押し上げる形となっている。

前回調査と比較しても、全体としての傾向は変わらない。

④ 寡婦世帯になってからの年数

質問 4 配偶者がいなくなられてから現在までの年数は何年ですか。

[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：寡婦世帯になってからの年数 (%)

		2年未満	2～5年未満	5～8年未満	8～11年未満	11～15年未満	15～18年未満	18～20年未満	20年以上	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	0.0	20.8	8.4	15.6	13.0	11.7	20.1	10.4
	一般計(n=120)	0.0	0.0	3.3	8.3	19.2	16.7	14.2	25.8	12.5
	震災計(n=34)	0.0	0.0	82.4	8.8	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	0.6	4.4	8.9	7.8	18.9	13.9	15.0	29.4	1.1
	一般計(n=174)	0.6	1.1	9.2	8.0	19.5	14.4	15.5	30.5	1.1
	震災計(n=6)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

寡婦世帯になってからの年数については、全体としては「5～8年未満」(20.8%)が最も多く、「20年以上」(20.1%)、「11～15年未満」(15.6%)の順となった。一般世帯計では「20年以上」(25.8%)が最も多く、次いで「11～15年未満」(19.2%)、「15～18年未満」(16.7%)。一般世帯と震災世帯を比べると、アンケート調査時点で震災から7年が経過するもので「5～8年未満」(82.4%)が最も多く、全体としての「5～8年未満」の割合を引き上げる形となった。

前回調査と比較すると、一般世帯において「20年以上」(30.5%)が最も多いなど、概ね傾向は変わらない。

(2) 就労・経済の状況について

① 就労形態

質問 5 あなたの勤労形態は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：勤労形態 (%)

		自営業	常時雇用者 (正規の職員・従業員)	臨時雇用者 (パートを含む)	労働者派遣 事業所の派遣社員	会社などの 役員	内職	家事手伝い (家族従事者)	その他	無職	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	3.9	42.2	25.3	2.6	1.3	0.0	1.3	1.3	12.3	9.7
	一般計(n=120)	4.2	43.3	24.2	3.3	1.7	0.0	1.7	1.7	8.3	11.7
	震災計(n=34)	2.9	38.2	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.5	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	7.2	37.2	31.7			1.1	0.0	4.4	17.8	0.6
	一般計(n=174)	6.9	37.9	32.2			1.1	0.0	4.6	16.7	0.6
	震災計(n=6)	16.7	16.7	16.7			0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

勤労形態については、全体としてみると「常時雇用者」が 42.2%と最も多く、「臨時雇用者」が 25.3%、「無職」が 12.3%とこれに続く。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯は「臨時雇用者」(29.4%)や「無職」(26.5%)の割合が相対的に高く、全体の割合を引き上げる形となっている。

前回調査と比較しても、全体として「常時雇用者」(37.2%)、「臨時雇用者」(31.7%)、「無職」(17.8%)の順となっている傾向は変わらない。

② 仕事内容

【質問 6～8 は、質問 5 で 1～8 (「9. 無職」を除く) とお答えの方に向かっていきます。】

質問 6 あなたの現在の仕事の内容は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：仕事内容 (%)

		専門的職業 (医師、看護師、保健師・保育士・教員など資格を有するもの)	管理的職業 (会社や団体の役員など)	事務(一般事務のほか、外勤事務を含む)	販売(商品の販売、店員、セールスなど)	運輸・通信 (職業運転士・同助手、荷役など運輸従事者、通信従事者)	農業、林業、漁業	技能職(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)	サービス業 (飲食店、理容・美容店など接客やサービス業従事者)	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=120)	18.3	0.8	30.0	14.2	0.8	0.0	12.5	10.8	10.0	2.5
	一般計(n=96)	15.6	1.0	28.1	14.6	1.0	0.0	13.5	12.5	10.4	3.1
	震災計(n=24)	29.2	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	8.3	4.2	8.3	0.0
平成25年度	寡婦世帯計(n=147)	12.9	2.0	19.7	12.9	0.0	0.0	16.3	15.0	19.0	2.0
	一般計(n=144)	13.2	2.1	19.4	13.2	0.0	0.0	16.7	14.6	18.8	2.1
	震災計(n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

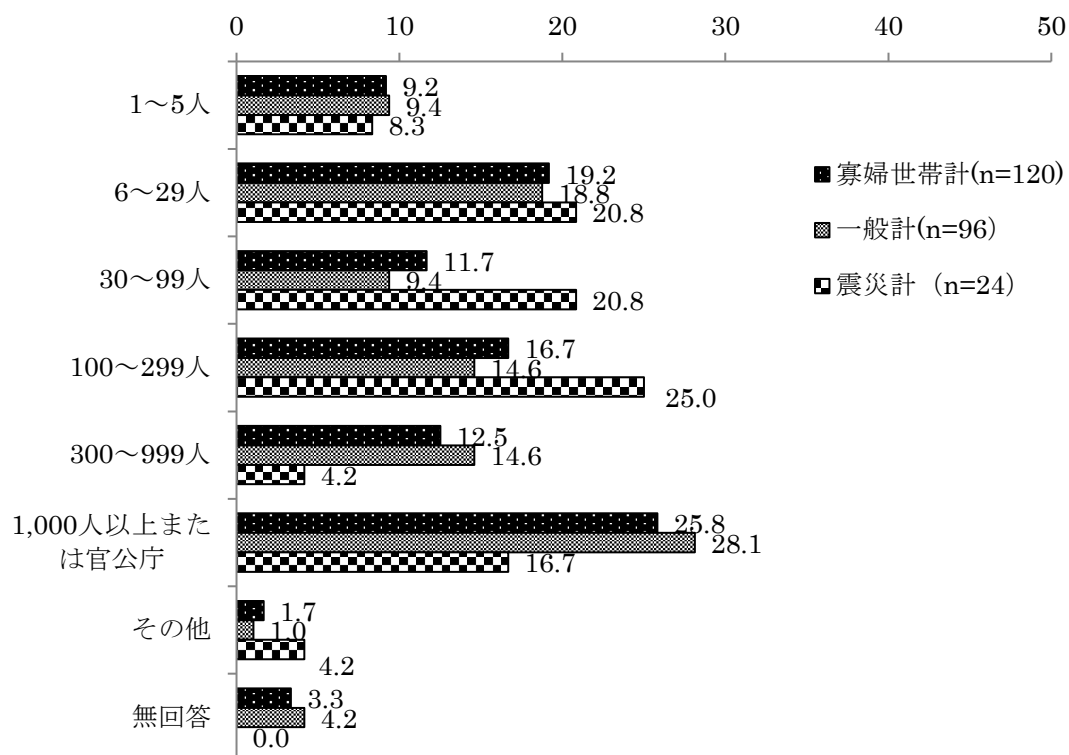
仕事の内容については、全体としてみると「事務」(30.0%)と最も多く、「専門的職業」(18.3%)、「販売」(14.2%)がこれに続いた。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「事務職」(37.5%)、「専門的職業」(29.2%)ともに一般世帯より割合が高く、「サービス業」(4.2%)や「技能職」(8.3%)に従事している回答者の割合は一般世帯と比べ低い結果となった。

前回調査と比較すると、全体としてみると「事務職」が最多の傾向に変わりはないが、「技能職」や「サービス業」に従事する回答者の割合は低下しており、「専門的職業」や「販売」に従事する回答者の割合が高まっていることがわかる。

③ 勤務先の規模

質問 7 あなたの勤務先の本社、支社、工場などを含めた企業全体の規模はどれくらいですか。
 [該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：勤務先の規模 (%) 【上：平成 30 年度】



勤務先の規模については、全体としてみると「1000人以上または官公庁」が25.8%と最も多く、次いで「6~29人」が19.2%、「100~299人」が16.7%となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「300~900人」(4.2%)や「1,000人以上または官公庁」(16.7%)の割合が一般世帯より低くなっていることがわかる。

④ 仕事を探した方法

質問 8 あなたは、今の仕事をどのような方法で探しましたか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：仕事を探した方法 (%)

		公共職業安定所(ハローワーク)の紹介	ひとり親家庭支援員などの紹介	知人・友人などの紹介	家族や親族の紹介	学校からの紹介	企業の募集広告	新聞・チラシ・雑誌などの求人広告	探す必要はなかった	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=120)	30.0	1.7	15.8	5.8	1.7	15.8	15.8	6.7	5.8	1.7
	一般計(n=96)	30.2	2.1	12.5	7.3	2.1	17.7	16.7	5.2	5.2	2.1
	震災計(n=24)	29.2	0.0	29.2	0.0	0.0	8.3	12.5	12.5	8.3	0.0
平成25年度	寡婦世帯計(n=147)	32.7	0.0	21.1	4.1	4.1	9.5	12.2	7.5	6.8	2.0
	一般計(n=144)	33.3	0.0	21.5	3.5	4.2	9.7	12.5	6.9	6.9	1.4
	震災計(n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3

仕事を探した方法については、全体として「公共職業安定所の紹介」(30.0%)が最も高く、「知人・友人などの紹介」(15.8%)と「企業の募集広告」(15.8%)、「新聞・チラシ・雑誌などの求人広告」(15.8%)が同率2位となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、「公共職業安定所の紹介」の回答者が最も多いのには変わりはないが、震災世帯では「知人・友人などの紹介」の割合が「公共職業安定所の紹介」と並んで最も高いことがわかる。

前回調査と比較しても、全体的な傾向は概ね変わらない。

⑤ 仕事に就かない理由

【質問 9 は、質問 5 で「9. 無職」とお答えの方にかがいます。】

質問 9 あなたが仕事に就かない(就けない)主な理由は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：仕事に就かない理由 (%)

		自分が病弱	子どもの世話、病気	他の家族の世話や介護	適職がない、勤務条件が合わない	働く必要がない	高齢のため	就職のための技能、技術習得中	その他	現在求職中である	就職は考えていない	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=19)	15.8	5.3	26.3	10.5	10.5	10.5	0.0	15.8	15.8		0.0
	一般計(n=10)	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0	20.0		0.0
	震災計(n=9)	11.1	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	11.1		0.0
平成25年度	寡婦世帯計(n=32)	25.0	6.3	21.9	15.6	3.1	9.4	0.0	15.6		3.1	0.0
	一般計(n=29)	24.1	6.9	24.1	17.2	0.0	10.3	0.0	13.8		3.4	0.0
	震災計(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3		0.0	0.0

仕事に就かない理由については、全体としては「他の家族の世話や介護」(26.3%)が最も多く、「自分が病弱」(15.8%)や「その他」(15.8%)、「現在休職中である」(15.8%)が同率でそれに続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、特に震災世帯においては「他の家族の世話や介護」(33.3%)が仕事に就かない(就けない)理由として多いことがわかる。

前回調査と比較すると、全体としては「他の家族の世話や介護」の割合が上昇している一方で、「自分が病弱」や「適職がない、勤務条件が合わない」と回答した世帯の割合は低下している。

⑥ 年間収入（世帯）

質問 10 あなたの世帯の平成 29 年の年間収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス、児童扶養手当、年金、養育費、仕送り等臨時収入を含む全世帯員の合計額）。[金額を記入してください。]

表：年間収入（世帯）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	1.9	10.4	13.0	15.6	14.3	14.3	7.8	0.6	22.1
	一般計(n=120)	2.5	7.5	12.5	15.0	16.7	15.0	5.0	0.8	25.0
	震災計(n=34)	0.0	20.6	14.7	17.6	5.9	11.8	17.6	0.0	11.8
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	14.4	29.4	22.8	12.7	8.9	4.4	3.3	2.8	1.1
	一般計(n=174)	14.9	29.9	23.5	11.5	9.1	4.6	2.9	2.3	1.1
	震災計(n=6)	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0

年間収入（世帯）については、全体としてみると（「無回答」（22.1%）を除くと）「300～400万円未満」（15.6%）が最も多く、「400～500万円未満」（14.3%）と「500～600万円未満」（14.3%）が同率でこれに続いている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「400～500万円未満」の割合が低い一方で、「100～200万円未満」の割合が比較的高くなっていることがわかる。

前回調査と比較すると、今回調査では300万円以上の割合が5割を超えるなど、世帯収入の分布が上方に動いていることが確認された。

⑦ 年間収入（個人）

質問 11 あなたの平成 29 年の年間収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス、児童扶養手当、年金、養育費、仕送り等臨時収入を含む合計額）。[金額を記入してください。]

表：年間収入（個人）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	3.2	20.8	24.0	13.6	5.2	1.3	5.2	5.2	21.4
	一般計(n=120)	3.3	19.2	24.2	14.2	4.2	1.7	3.3	5.8	24.2
	震災計(n=34)	2.9	26.5	23.5	11.8	8.8	0.0	11.8	2.9	11.8

年間収入（個人）については、全体としてみると「200～300万円未満」が24.0%、「100～200万円未満」が20.8%、「300～400万円未満」が13.6%の順となっている。300万円以下の世帯が全体の5割近くに及ぶなど分布が下位に偏っており、世帯収入と合わせてみると、回答者以外の世帯員との補完にて生計を維持している姿が窺われる。一般世帯と震災世帯を比較すると、「400～500万円未満」や「600万円以上」のカテゴリーで震災世帯がやや高い割合を示しているが、全体的な傾向は一般世帯と震災世帯とで変わりはない。

⑧ 年間就労収入（個人）

質問 12 あなたの平成 29 年の年間就労収入（税金等控除前）はどの位ですか（ボーナス等を含む合計額）。[金額を記入してください。]

表：年間就労収入（個人）（%）

		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600万円以上	収入なし	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	5.8	20.8	23.4	10.4	3.2	1.9	1.9	9.7	22.7
	一般計(n=120)	3.3	20.0	25.0	11.7	2.5	1.7	1.7	9.2	25.0
	震災計(n=34)	14.7	23.5	17.6	5.9	5.9	2.9	2.9	11.8	14.7

年間就労収入については、全体としてみると「200～300万円未満」が23.4%と最も多く、「100～200万円未満」が20.8%、「300～400万円未満」が10.4%とこれに続いている。年間収入（個人）と分布は近似しているが、「収入なし」と回答する世帯の割合が9.7%確認され、児童扶養手当や年金といった公的制度に依存している世帯も一定数存在することがうかがわれる。

(3) 社会保険等の利用状況について

① 社会保険の加入状況

質問 13 あなたの現在の社会保険の加入の状況は、どのようになっていますか。

[該当する番号 1つに○をつけてください。]

ア 雇用保険

表：雇用保険の加入状況（％）

		加入している	加入していない	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	69.5	18.2	12.3
	一般計(n=120)	72.5	15.8	11.7
	震災計(n=34)	58.8	26.5	14.7

雇用保険の加入状況については、全体としてみると「加入している」が 69.5%で、「加入していない」(18.2%)を大きく上回っている。一般世帯、震災世帯ともにこの傾向は変わらないが、震災世帯のほうが「加入していない」と回答する割合がやや高いことが確認された。

イ 健康保険

表：健康保険の加入状況（％）

		被用者保険に加入している	国民健康保険に加入している	その他	加入していない	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	64.3	20.1	1.3	1.9	13.0
	一般計(n=120)	66.7	16.7	1.7	1.7	14.2
	震災計(n=34)	55.9	32.4	0.0	2.9	8.8

健康保険については、全体としてみると「被用者保険に加入している」が 64.3%、「国民健康保険に加入している」が 20.1%となっており、「加入していない」世帯は 1.9%にとどまった。一般世帯と震災世帯を比較すると、いずれかの保険に加入している割合が 8 割を超えているが、震災世帯の方が「国民健康保険」(32.4%)の加入している割合が高いことが確認された。

ウ 公的年金

表：公的年金の加入状況（％）

		被用者年金に加入している	国民年金に加入している	加入していない	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	59.1	18.2	5.8	11.7
	一般計(n=120)	61.7	13.3	6.7	11.7
	震災計(n=34)	50.0	35.3	2.9	11.8

公的年金については、全体としてみると「被用者年金に加入している」が59.1%と最も多く、「国民年金に加入している」が18.2%、「加入していない」が5.8%とこれに続いた。一般世帯、震災世帯ともにこの傾向に変わりはないが、震災世帯の方が「国民年金に加入している」と回答した割合が高く、「加入していない」と回答した世帯がごくわずかにとどまっていることが確認された。

② 生活保護受給の有無

質問 14 あなたは現在、生活保護を受給していますか。【該当する番号 1 つに○をつけてください。】

表：生活保護受給の有無（％）

		受給している	受給していない	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	0.0	89.0	11.0
	一般計(n=120)	0.0	86.7	13.3
	震災計(n=34)	0.0	97.1	2.9

生活保護受給の有無については、今回のアンケート調査では一般世帯、震災世帯ともに「受給している」と回答した世帯はなかった。

③ 公的年金受給の有無

質問 15 あなたは現在、公的年金を受給していますか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：公的年金受給の有無（％）

		遺族年金を受給している	障害年金を受給している	老齢年金を受給している	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	28.6	1.9	2.6	66.9
	一般計(n=120)	13.3	2.5	3.3	80.8
	震災計(n=34)	82.4	0.0	0.0	17.6

公的年金受給の有無については、一般世帯においては「無回答」（80.8%）、震災世帯においては「遺族年金を受給している」（82.4%）が圧倒的に多い。震災世帯においては、「災害、事故死」を理由に寡婦世帯となった世帯が多かったことから、「遺族年金を受給している」割合が高く、一般世帯においてはそもそも公的年金を受給していない世帯が多いことがうかがわれる。

④ 年金受給額

【質問 16 は、質問 15 で「1. 2. 3 受給している」とお答えの方に向かっていきます。】

質問 16 あなたの年金月額は何くらいですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：年金受給額（％）

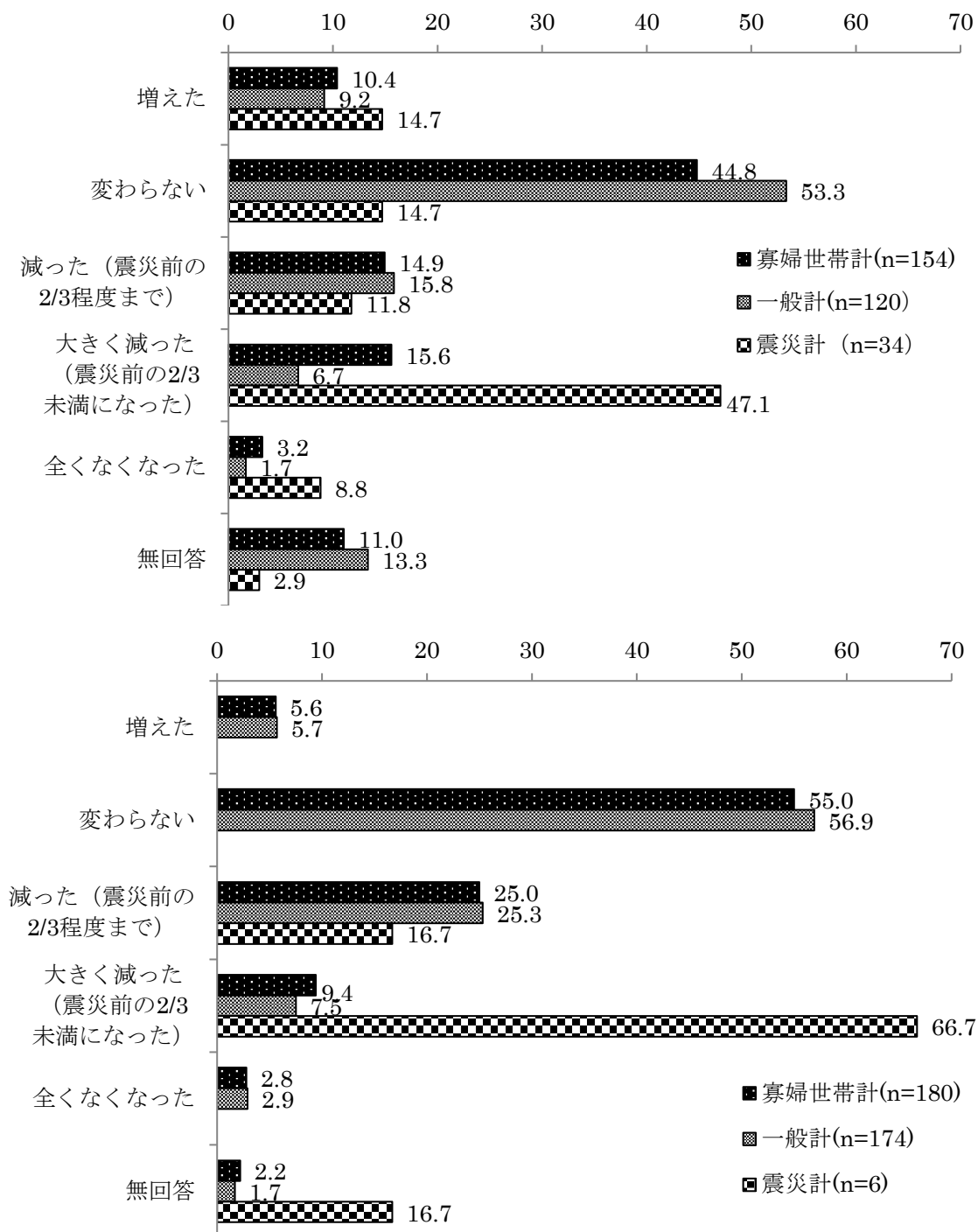
		5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20万円以上	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=51)	11.8	35.3	27.5	11.8	11.8	2.0
	一般計(n=23)	17.4	43.5	34.8	0.0	4.3	0.0
	震災計(n=28)	7.1	28.6	21.4	21.4	17.9	3.6

年金月額については、全体としては「5～10万円未満」が35.3%と最も多く、「10～15万円未満」が27.5%とこれに続いた。一般世帯、震災世帯ともに「5～10万円未満」の世帯が最も多いが、震災世帯では「10～15万円未満」と「15～20万円未満」がともに21.4%で同率2位となっており、一般世帯と比べ「5万円未満」の割合は小さいことが確認された。

⑤ 東日本大震災後の世帯の年間収入の変化

質問 17 東日本大震災後、世帯の年間収入は変化がありましたか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：震災前後の世帯収入の変化 (%) 【上：平成 30 年度、下：平成 25 年度】



震災後の世帯収入の変化については、全体としては「変わらない」が 44.8%と突出している。ただ、一般世帯において「変わらない」と回答した割合が 53.3%だった一方で、震災世帯においては「変わらない」と回答した割合は 14.7%にとどまり、逆に「大きく減った」と回答した割合が 47.1%に上った。

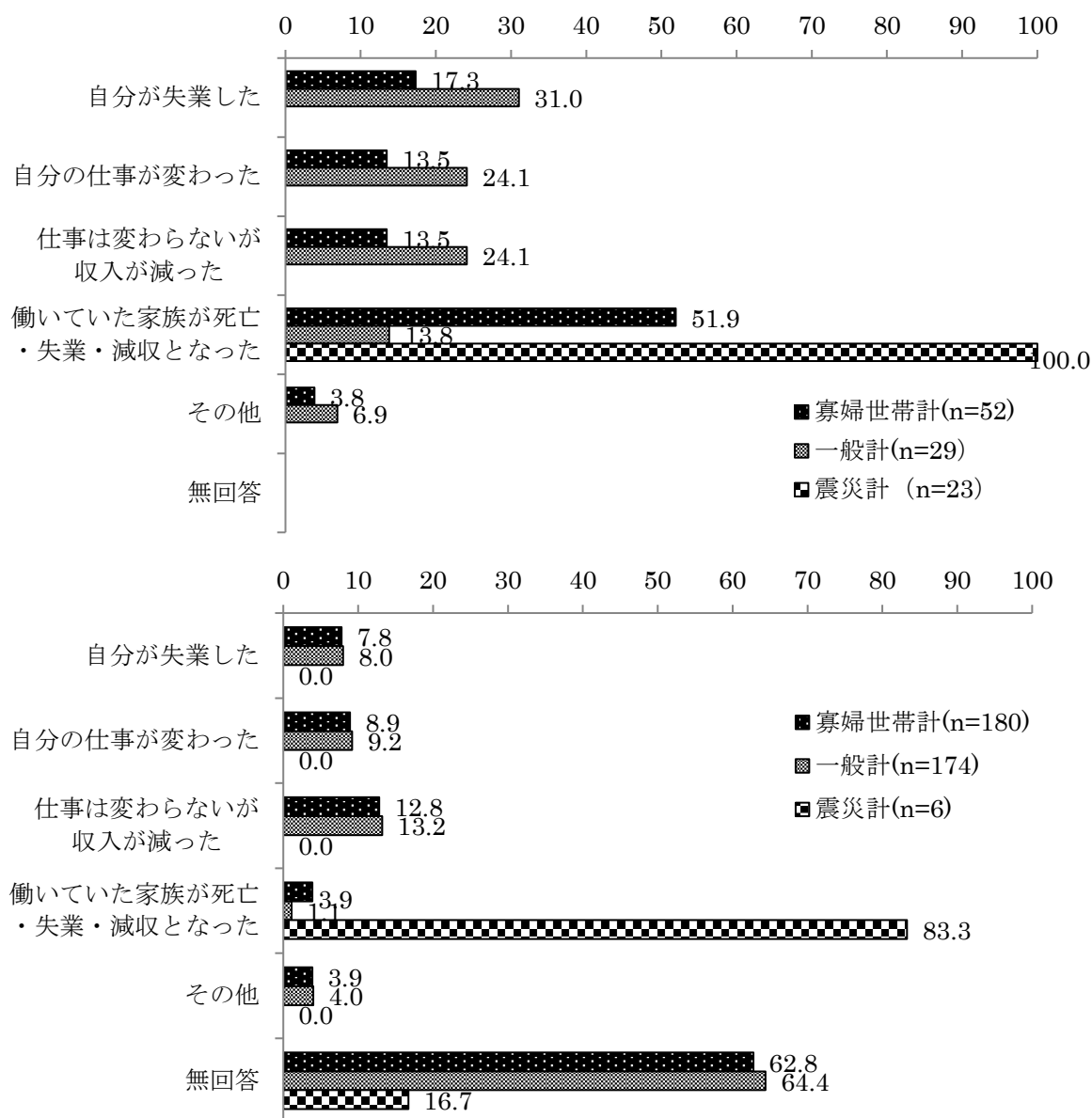
前回調査と比較しても、震災世帯がより世帯収入の減少を強いられている構図に変わりはない。

⑥ 世帯収入が減った理由

【質問 18 は、質問 17 で「3. 減った、5. 全くなくなった」とお答えの方にかがいます。】

質問 18 世帯収入が減った（全くなくなった）主な理由は何ですか。【該当する番号 1つに〇 をつけてください。】

図：世帯収入が減った理由（％）【上：平成 30 年度、下：平成 25 年度】



世帯収入が減った（全くなくなった）主な理由としては、全体としては「働いていた家族が死亡・失業・減収となった」が 51.9%と最も多く、「自分が失業した」が 17.3%とこれに続いた。ただ、一般世帯、震災世帯別にみると、震災世帯では世帯収入が減った（全くなくなった）世帯のすべてが「働いていた家族が死亡・失業・減収となった」と回答しており、全体として「働いていた家族が死亡・失業・減収となった」割合を押し上げている。一方で、一般世帯においては「自分が失業した」（31.0%）や「自分の仕事が変わった」（24.1%）、「仕事は変わらないが収入が減った」（24.1%）が主な理由となっている。

前回調査と比較しても、全体の構図は変わらない。

⑦ 東日本大震災前の住居状況

質問 19 東日本大震災前の住居の状況は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：震災前の住居状況（％）

		持ち家(分譲マンションを含む)	父母等の家に同居	借家(民間の借家・アパート・賃貸マンション)	公営・公社・公団の賃貸住宅	間借り	会社の社宅等	母子家庭生活支援施設	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	40.3	13.6	26.0	7.8	0.6	0.0	0.0	0.6	11.0
	一般計(n=120)	28.3	16.7	30.0	10.0	0.8	0.0	0.0	0.8	13.3
	震災計(n=34)	82.4	2.9	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	40.6	17.2	21.1	17.8	0.0	0.0	0.0	2.8	0.6
	一般計(n=174)	39.1	17.8	21.3	18.4	0.0	0.0	0.0	2.9	0.6
	震災計(n=6)	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

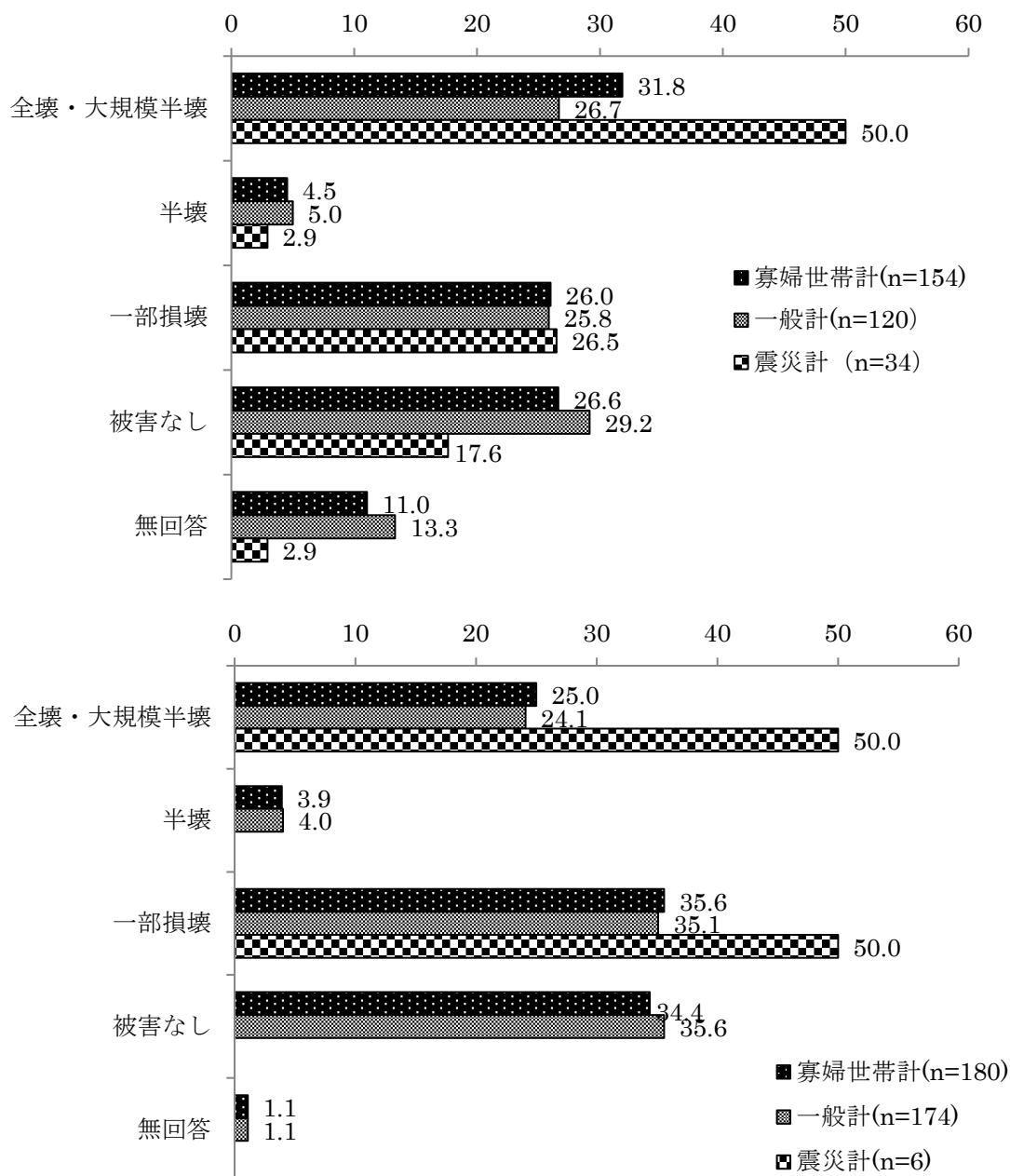
震災前の住居については、全体としては「持ち家」が40.3%と最も多く、「借家」が26.0%、「父母等の家に同居」が13.6%とこれに続く。一般世帯と震災世帯を比べると、震災世帯においては「持ち家」の割合が82.4%と突出しており、全体としての「持ち家」の割合を引き上げる形となっている。一般世帯においては「借家」(30.0%)と「持ち家」(28.3%)の割合はほぼ同程度である。

前回調査と比較すると、震災世帯で「持ち家」の割合が圧倒的に高い点は変わらないが、一般世帯の傾向として今回調査では前回調査に比べて「持ち家」や「公営・公社・公団の賃貸住宅」の割合がやや低く、一方で「借家」の割合がやや高くなっている。

⑧ 東日本大震災による住居の被害状況

質問 20 東日本大震災前の住居は、被害がありましたか。【該当する番号 1 つに○をつけてください。】

図：震災による住居の被害状況（%）【上：平成 30 年度、下：平成 25 年度】



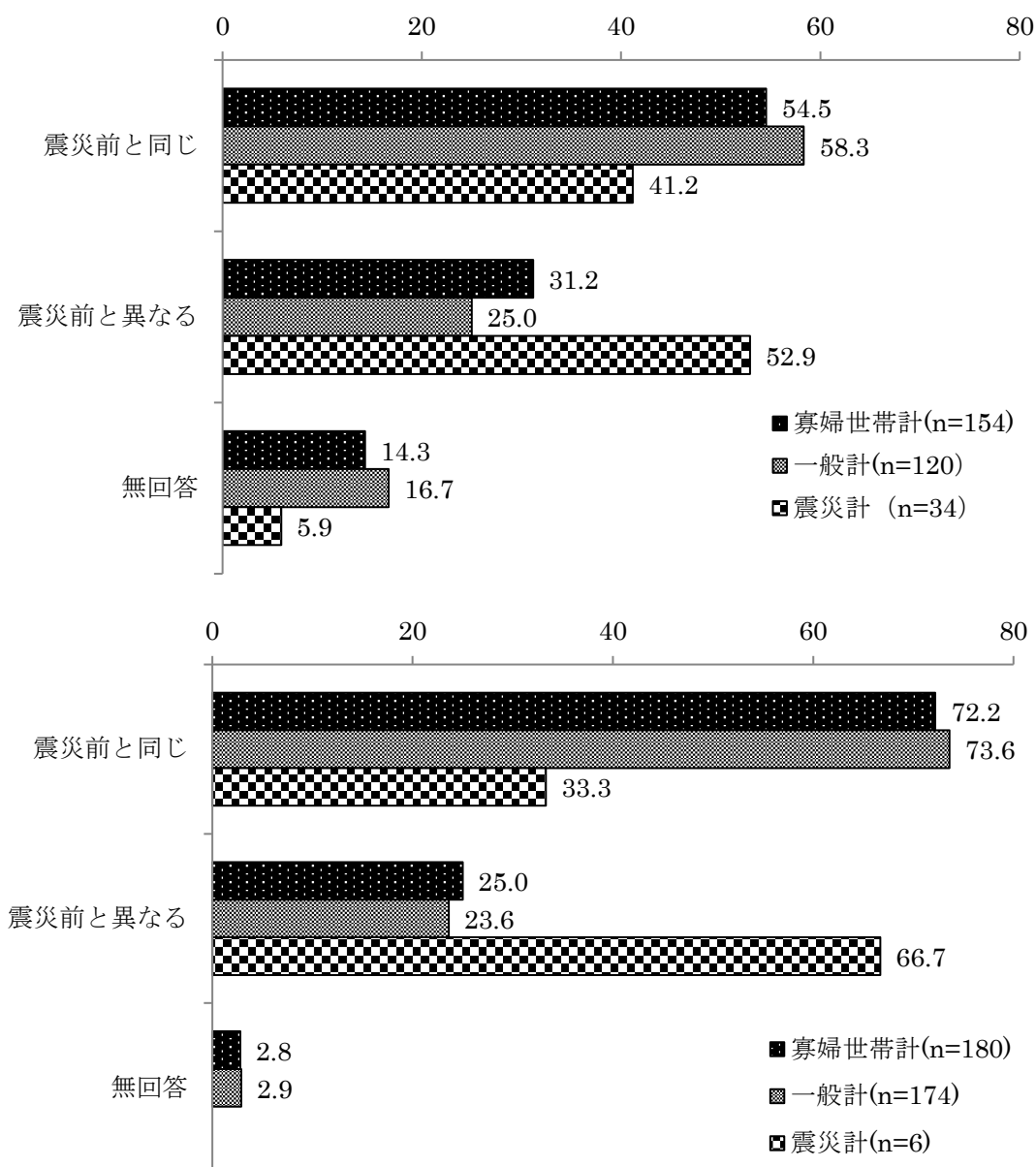
震災による住居の被害状況については、全体としては「全壊・大規模半壊」が 31.8%と最も高く、「一部損壊」(26.0%)と「被害なし」(26.6%)はほぼ同程度となっている。震災世帯の 5 割が「全壊・大規模半壊」と回答しており、全体としての傾向を押し上げた形である。「半壊」は一般世帯・震災世帯ともに数%にとどまる。

前回調査と比較すると、全体として「全壊・大規模半壊」の割合が大きく出ている一方で、「一部損壊」の割合が小さく出ている。前回調査では「被害なし」と回答する震災世帯がいなかったことも割合の大小に影響している。

⑨ 東日本大震災前後の住居の変化

質問 21 現在の住居は、東日本大震災の前と後では異なりますか。異なる場合は、どのような状況ですか。 [該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：震災前後の住居の変化 (%) 【上：平成 30 年度、下：平成 25 年度】



震災前後の住居の変化については、全体としては「震災前と同じ」(54.5%)が過半数を占め、「震災前と異なる」(31.2%)と回答した割合は約3割にとどまっている。ただ、一般世帯、震災世帯別にみると、一般世帯は「震災前と同じ」(58.3%)が「震災前と異なる」(25%)を大きく上回っている一方で、震災世帯では「震災前と異なる」(52.9%)と回答した世帯が過半数を占め、「震災前と同じ」(41.2%)を上回っている。

前回調査と比較しても、一般世帯では「震災前と同じ」割合が大きく、震災世帯では「震災前と異なる」割合が大きいという様相に変わりはない。

⑩ 東日本大震災後の住居状況

【質問 22 は、質問 21 で「2. 震災前と異なる」とお答えの方にかがいます。】

質問 22 あなたの東日本大震災後の住居の状況は何ですか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

表：震災後の住居状況（％）

		持ち家を再 建・購入した	仮設住宅・ みなし仮設 住宅	災害公営住 宅	父母や親族 等の家に同 居	借家(民間 の借家・ア パート・賃貸 マンション)	公営・公社・ 公団の賃貸 住宅	間借り	会社の社宅 等	母子家庭支 援施設	その他	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=48)	39.6	6.3	14.6	12.5	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0
	一般計(n=30)	26.7	6.7	20.0	16.7	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0
	震災計(n=18)	61.1	5.6	5.6	5.6	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成25年度	寡婦世帯計(n=45)	26.7	48.9	0.0	4.4	13.3	2.2	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0
	一般計(n=41)	24.4	48.8	0.0	4.9	14.6	2.4	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0
	震災計(n=4)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

震災後の住居については、全体としては「持ち家を再建・購入した」（39.6％）が最も多く、「借家」（16.7％）、「災害公営住宅」（14.6％）がこれに続く。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯では「持ち家を再建・購入した」が 61.1％と圧倒的に多く、全体の比率を引き上げた形である。また、一般世帯に比べ震災世帯では「借家」（22.2％）の割合が大きくなっていることも特徴と言える。

前回の調査時点では震災から 2 年しか経過していなかったこともあって、一般世帯・震災世帯ともに「災害住宅・みなし仮設住宅」の比率が高かったものの、今回調査では全体の「仮設住宅・みなし仮設住宅」は 6.3％にとどまっており、経年によって生活の再建が進んでいると見ることもできる。

(4) 困りごとの状況

① 現在困っていること

質問 23 現在あなたが困っていること悩んでいることは何ですか。

[該当する番号 2 つ以内に○をつけてください。]

表：現在困っていること (%)

		生活費	仕事	住居	家事	健康	親族の健康・介護	相談相手	結婚	老後のこと	その他	特になし	無回答
平成30年度	寡婦世帯計(n=154)	37.0	16.2	5.8	0.6	19.5	22.1	2.6	0.0	41.6	37.0	10.4	10.4
	一般計(n=120)	38.3	17.5	6.7	0.8	14.2	20.0	3.3	0.0	38.3	38.3	10.0	12.5
	震災計(n=34)	32.4	11.8	2.9	0.0	38.2	29.4	0.0	0.0	52.9	32.4	11.8	2.9
平成25年度	寡婦世帯計(n=180)	52.2	20.6	11.7	1.1	26.1		1.7	0.0	47.8	10.6		2.2
	一般計(n=174)	52.9	20.1	10.9	1.1	24.7		1.7	0.0	47.7	10.9		2.3
	震災計(n=6)	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7		0.0	0.0	50.0	0.0		0.0

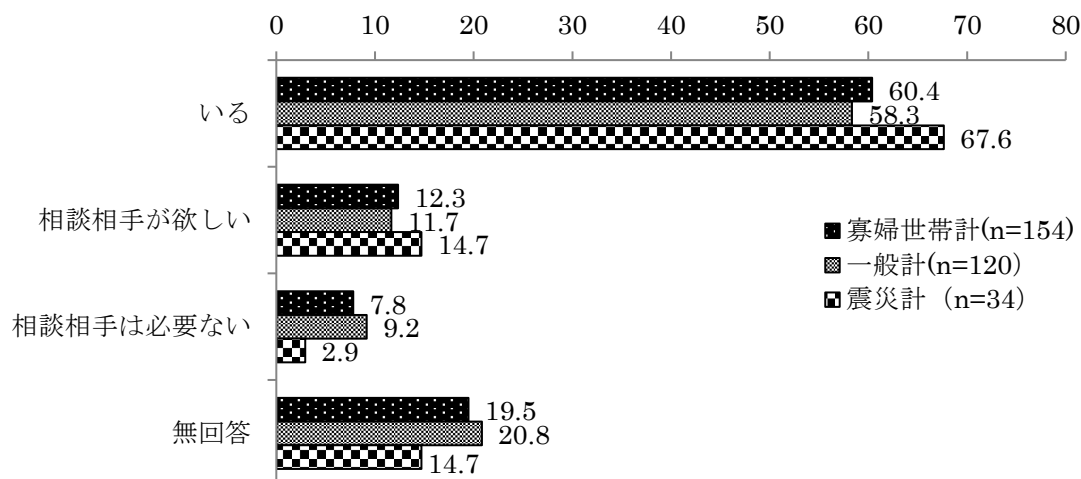
現在困っていることについては、全体では「老後のこと」(41.6%)が最も多く、「生活費」(37.0%)と「その他」(37.0%)が同率で2位となった。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯においては「老後のこと」(52.9%)と回答した割合が過半数を占めており、全体としての割合を引き上げた形である。また、一般世帯と比較して「健康」(38.2%)や「親族の健康・介護」(29.4%)で困っている割合が大きいことも特徴と言える。

前回調査と比較しても、全体として「生活費」や「老後のこと」が主要な困りごととなっている構図に変わりはない。また、前回調査、今回調査ともに一般世帯と比較して震災世帯は「健康」で困っている回答者が多い傾向が見て取れる。

② 相談相手の有無

質問 24 あなたには相談相手がありますか。[該当する番号 1 つに○をつけてください。]

図：相談相手の有無 (%)【平成30年度】



相談相手の有無については、一般世帯、震災世帯ともに「いる」が過半数を占めている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯は「相談相手は必要ない」(2.9%)や「無回答」(14.7%)の割合がやや小さく、代わって「いる」(67.6%)や「相談相手が欲しい」(14.7%)と回答する世帯が多くなっている。

③ 相談先

【質問 25 は、質問 24 で「1. いる」とお答えの方にかがいます。】

質問 25 心配ごと等の相談は誰（どこ）にしていますか。[該当する番号 2 つ以内に○をつけてください。]

表：相談先（％）

	平成30年度			平成25年度		
	寡婦世帯計(n=93)			寡婦世帯計(n=180)		
	一般計 (n=70)	震災計 (n=23)		一般計 (n=174)	震災計 (n=6)	
民生委員・児童委員	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0
ひとり親家庭支援員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県母子・父子福祉センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母子父子寡婦福祉団体・ ひとり親家庭支援団体	0.0	0.0	0.0	3.3	3.4	0.0
県保健福祉事務所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童相談所	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0
市町村	1.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
家族・親族	80.6	78.6	87.0	52.8	51.1	100.0
友人・知人	75.3	78.6	65.2	18.9	19.5	0.0
NPO法人	1.1	1.4	0.0			
任意団体	0.0	0.0	0.0			
その他	2.2	2.9	0.0	0.6	0.6	0.0
相談相手はいない				20.0	20.7	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	3.3	3.4	0.0

心配ごと等の相談相手については、一般世帯・震災世帯ともに「家族・親族」や「友人・知人」と回答する世帯が過半数を超えた。一般世帯において「市町村」（1.4%）や「NPO法人」（1.4%）と回答する世帯もわずかに確認されたが、震災世帯においては「家族・親族」、「友人・知人」以外の回答はなかった。

前回調査と比較すると、全体として「家族・親族」が最も多いことに変わりはないが、今回調査では一般世帯・震災世帯ともに「友人・知人」と回答する割合も増えている。

(5) 福祉制度の利用状況

① 希望する福祉制度

質問 26 あなたが希望する福祉制度は何ですか。[該当する番号 3 つ以内に○をつけてください。]

表：希望する福祉制度 (%)

	平成30年度			平成25年度		
	寡婦世帯計(n=154)			寡婦世帯計(n=180)		
		一般計 (n=120)	震災計 (n=34)		一般計 (n=174)	震災計 (n=6)
公的年金の増額	62.3	58.3	76.5	64.4	63.8	83.3
児童扶養手当の増額	5.8	6.7	2.9	3.9	4.0	0.0
生活保護費の増額	0.0	0.0	0.0	3.3	2.9	16.7
母子父子寡婦福祉資金 貸付金制度の充実	8.4	10.0	2.9	10.6	10.9	0.0
以外の貸付金制度の充 実	3.9	4.2	2.9			
母子・父子家庭等医療費 助成制度の充実	10.4	10.0	11.8	11.7	10.9	33.3
減税	43.5	41.7	50.0	55.0	54.6	66.7
公営住宅の優先入居	5.8	6.7	2.9	11.7	12.1	0.0
就職相談・斡旋、職業訓 練等	7.1	8.3	2.9	6.1	6.3	0.0
優先雇用	52.6	52.5	52.9	13.3	13.8	0.0
技能・資格取得のための 援助の充実	13.0	12.5	14.7	12.8	12.6	16.7
保育制度・留守家庭児童 に対する事業の充実	7.8	6.7	11.8	10.6	10.9	0.0
学習支援	0.6	0.8	0.0			
その他	4.5	3.3	8.8	5.0	5.2	0.0
希望する制度はない	6.5	5.8	8.8	5.6	5.7	0.0
無回答	13.0	15.0	5.9	1.1	1.1	0.0

希望する福祉制度については、全体として「公的年金の増額」(62.3%)と最も多く、「優先雇用」(52.6%)、「減税」(43.5%)の順となっている。一般世帯と震災世帯を比較すると、震災世帯の方が「公的年金の増額」(76.5%)と回答する割合が大きく、全体の割合を引き上げた形である。

前回調査と比較すると、「公的年金の増額」や「減税」が主に希望する福祉制度であることに変わりはないが、今回調査の方が一般世帯・震災世帯ともに「優先雇用」を希望する声が多くなっている。

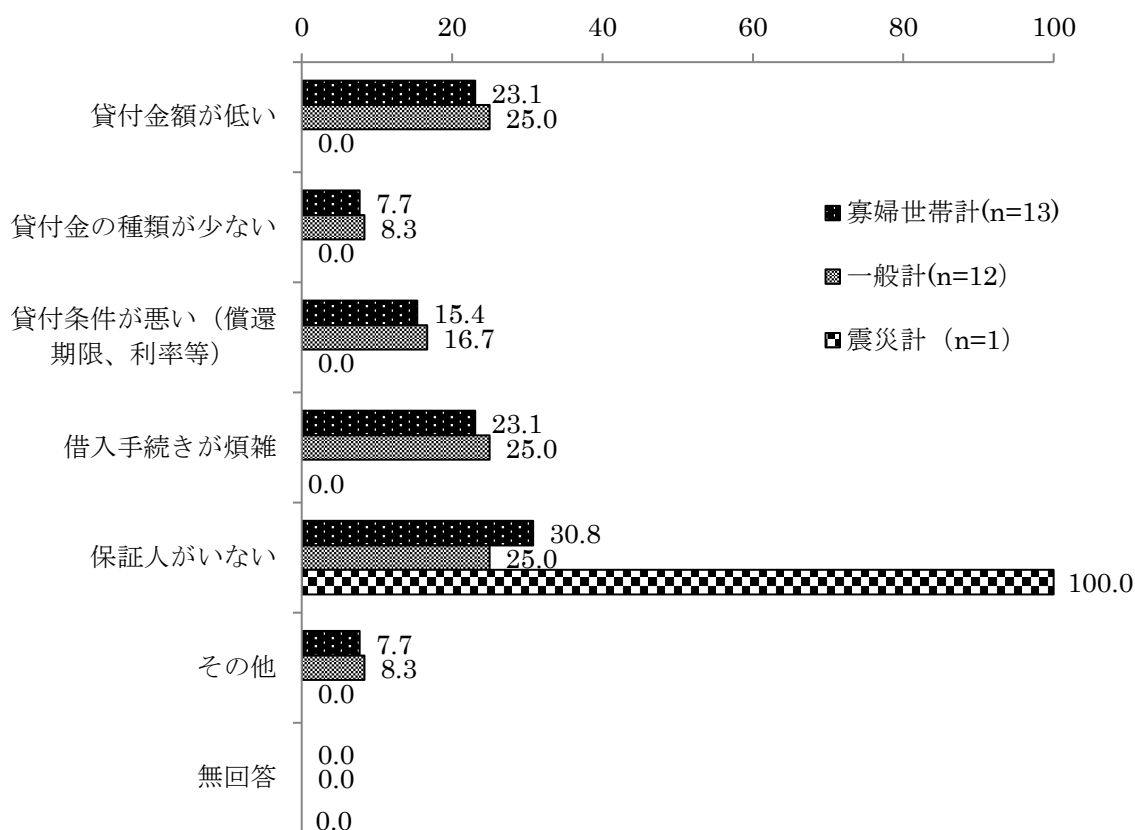
② 母子父子寡婦福祉貸付金制度の充実を希望する理由

【質問 27 は、質問 26 の「4. 母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実」とお答えの方にかがいます。】

質問 27 母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実を希望する理由は何ですか。

[該当する番号 1つに○をつけてください。]

図：母子父子寡婦福祉貸付金制度の充実を希望する理由（％）
【平成 30 年度】



母子父子寡婦福祉資金貸付金制度の充実する理由としては、全体としては「保証人がいない」(30.8%)が最も多く、「貸付金額が低い」(23.1%)と「借入手続きが煩雑」(23.1%)が同率でこれに続いた。ただ、一般世帯・震災世帯別でみると、一般世帯では「貸付金額が低い」、「貸付条件が悪い」、「保証人がいない」がいずれも 25.0%で最も多く、震災世帯で唯一の回答者である世帯は「保証人がいない」(100.0%)と答えている。